

滝沢村学校給食食材生産供給組合（岩手県滝沢村） ～農業者、給食センター、行政の連携による学校給食への地場産物の提供～

代表者: 組合長 工藤 肇

所在地: 岩手県滝沢村

構成員: 生産者(平成25年1月現在26名)

活動開始年: 平成15年



表彰理由

地域の子供たちに地場農産物を食べさせたいとの思いから、女性農業者が中心となって組織を立ち上げ、学校給食への地場農産物の提供を開始。

学校給食に地場農産物を安定的に供給するため、給食センターの栄養士や調理員、組合員、行政が連携し、規格や品質、納入方法等について協議し、計画を立てて実施。また、給食センターの栄養士や調理員による生産現場の視察を行うなど、相互理解を図っている。

この結果、大規模給食に対応することが可能となるとともに、生産者や栄養士などの地産地消に対する意識が向上し、学校給食での地場農産物の使用割合が徐々に増加している。

地域の女性農業者が中心となって組織を立ち上げ、その活動が地域全体に広まった点は、他地域とは異なる特徴であり、評価された。

取組内容

1. 大規模給食への挑戦

○地域の子どもたちに地場農産物を食べさせたいとの思いから、女性農業者による滝沢村生活研究グループを中心に、「地場産品を学校給食に届ける会」を立ち上げ、学校給食への地場農産物の納入を始めた。1日あたり約5300食という県内最大規模の給食に対応するため、賛同する地域の生産者を募って組織強化をはかり、「滝沢村学校給食食材生産供給組合」を平成22年に設立。生産者が直接給食センターへ納品して、調理員とともに品質確認を行いながら、地場産物を供給している。

○学校給食に地場産物を積極的に供給している組織・団体等の先進事例の研修を行い、地産地消の割合を高めるよう努めている。

2. 組合員(生産者)、栄養士、調理員、行政の連携

○学校給食へ地場産物を供給するに当たり、提供食材の品目や数量、規格、品質等について、組合員(生産者)、栄養士、調理員、行政等の関係者間で栽培計画を立て、栽培に取り組むことで、地場農産物の使用割合が徐々に増加し、地域農業の振興に寄与している。また、給食センターの栄養士や調理員に地場農産物を理解してもらうため、生産地視察を受入れ、相互理解を図っている。

3. ふれあい給食会の実施

○組合員が児童とともに学校給食をいただく「ふれあい給食会」を実施している。栽培する上での苦労話や地域の農業について語り、地域農業の理解促進と、食育を推進している。